

2015年7月30日(木) 3校目

上演3

大分県 大分豊府高等学校

「うさみくんのお姉ちゃん」

第39回全国高等学校総合文化祭
第61回全国高等学校演劇大会

講評速報

生徒講評委員会 担当委員

井上 涼太 (滋賀県立甲西高等学校)

石田 陽 (賢明女子学院高等学校・兵庫県)

木村 吏那 (滋賀県立守山高等学校)

幕が上がるとそこにはリアルな放課後の教室。教室の後ろの席で課題をしている宇佐美といやな笑い方をする女子二人組。私達が日常的に見ている風景と重なった。

居残り学習をしている宇佐美のもとへ学食友達のまつきんが保健室登校の溝呂木を連れてくる。溝呂木は挙動不審でほとんどしゃべらない。中学生の時に教室でおもらししてしまい、それ以来女子と話すことができなくなっていた。そんな溝呂木を心配し、宇佐美くんのお姉ちゃんに話し相手になってくれと頼む。宇佐美くんのお姉ちゃんは怖い。ストレートな物言いで溝呂木をビビらせる。はじめは話すこともままならなかったが、宇佐美くんのお姉ちゃんも溝呂木もつらいときにアンパンマンマーチを歌っていたことが分かったと、二人は一緒に歌い出し次第に心を通わせていく。

吹奏楽の音や部活をする生徒の音がドアの開閉によって大きくなったり小さくなったりする。夕暮れになると教室の扉の影が出来たり、宇佐美くんのお姉ちゃんの顔に夕日が当たる。音や光の変化が自然で本当に放課後の教室にいるようだった。

観客は大いに笑った。笑った箇所は数多くあるが、その中でも、腹痛に苦しむ溝呂木をまつきんや宇佐美が「耐えろ！耐えろ！」と励まし、それに応えて溝呂木が悶え苦しみながらも耐えるシーンは、互いに必死だからこそおもしろかった。これが二回、三回と繰り返されるにつれて会場全体も手拍子で応援に加わるほどの一体感が生まれていた。

アンパンマンマーチの歌詞と溝呂木の気持ちは重なる。溝呂木は「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのは…」の続きを歌えなかった。宇佐美くんのお姉ちゃんは、女子二人組が溝呂木を見て笑った時、「笑うな！」と一喝し、「そうだ うれしいんだ 生きる喜び たとえ 胸の傷がいたんでも」と歌って、苦しくても立ち向かわなければいけない、と勇気づけた。宇佐美くんのお姉ちゃんの愛と勇気を目の当たりにして、溝呂木は「いやだー！」と自分の思いをやっと吐き出すことができた。溝呂木が一步まえに進むことができ良かった、と皆が思える瞬間だった。

宇佐美くんのお姉ちゃんをはじめアンパンマンに顔が似ていると言われていたが、内面も、愛と勇気で弱きを助け、悪を正し、友達を守るアンパンマンそのものであった。そして、溝呂木と変わらず友達でいるまつきんも、事情を知ってすぐに受け入れた宇佐美も、一緒になって味方してくれた宇佐美くんのお姉ちゃんの友達もみんなヒーローだった。それぞれしたことは違うけれど、各々がヒーローになれた。

私達もそれぞれに違うことができる。勇気を持って一步踏み出そうと思わせてくれる作品だった。

